

幸せ

厚母至眞子

「ある神父様の思い出」

「何でも食べてください」

「冷蔵庫も自由に開けてください」

そう言われて開けてみると

冷蔵庫も冷凍庫もほとんど空っぽ

でも、神父様にとっては

ごちそうの詰まった宝庫

小さくラップに包んだ冷凍ご飯も

切りかけて小さくなったハムも

大きなごちそう

テーブルの上には林檎1個と

インスタントコーヒーの瓶ひとつ

「ご自分のことにはお金を使わず

余ったお金は修道会へ送金

仲間のため、困った人のために

役に立ててくれると信じて

古びて欠けそうな眼鏡の奥から

青みがかった大きな目

優しいまなざし

「荷物をたくさん持つと疲れます」

袖口の朽ちかけた服を着て

新しく戴いた殆どのものは

誰かにプレゼントしていた

そんなお方との

数々の幸せな思い出

晴れた宇部を出発して2時間

津和野の空は曇っていたけれど

心のどこかからあたためられてきた

幸せって その2

厚母至眞子

気付いたことに感謝

幸せってどんな味？

ゴディバの甘いチョコ味かな

幸せってどんな色？

そりややっぱり、金色でしょうね

幸せってどんな形？

全体に円い地球のような球体かな

もっと言いたいのは

「ありがとう」と「大好き」の心

感謝は人を幸せにする

好きなことは人を幸せにする

お風呂上がりの気持ちよさ

それさえあれば人生は楽しい

「ありがとう」と「大好き」

出会えたことに感謝

人はみんな死んで行くのだから

「今」を心して生きていこう

いつか、しみじみと

振り返ることが出来るように

2025. 6. 7 (土) 詩カフェ